

泉南走ろう会

連絡先
泉南スポーツ社
07248(3)4653

淡路島うすしおマラソン全国大会に備えて

祕密練習の記

1月31日前日まで寒波の為寒い

不快の吹く日和であった。えな日でも

走らぬあかんのかなあと思っていた。と上に

風邪足味はどうも夏が遅まないにて当日と

なたまあ暖かい日である。A・I・Tの三人

三人午後二時に集合し、はば行かとなり

大川峠の兼てより「」が予定していたズ

タート地点に着く。宇一ミシングアーフも、そ

こそこそとぐるぐる空を充分やうてあうれな

い。時計は三時五分と思う。往復三キロの

コースに向けて出発する。A・I・Tと三人

か一列に並び走り出す。「」が「あら坂を

あら坂が相当ある」と走る前からあじ氣づき

つられて、グンゲン坂を登る。磯風か心地よい

景色もバツグンである。各々五〇〇メートルの間隔で走る。Aは先頭I・Tと

続く。I調子である。そもそもAより折返

し地点は何処だと「」に尋ねる。「」は

淡島神社の前の前の橋を指した。まだまだと言ふ。Aはまもなく折返す。あれその時「」は「」後から走りゴボ抜きする樂と声をかけられ、軽く抜かれ、「」折り返し地点になても止らない止らない止らぬと冗談を言ながうとのまま進む。さざに「」と「」が並び折り返す。Aはおへん先へ進む。A・I・Tの距離が聞く。

その時である。何時之間につて未だつか、コド一抜きある楽しきとしが「」を抜く。

まのびき何時までも続くものでなし、そのまま追いやる。案り定「」の間隔がまた縮まる。今度は「」と「」が「」に追い越され、相当なスピードである。遂に「」は

断念ふりきりれる。そのまま往路は下りで、あいか今度は上りとなた。ヘヤビニカーブにかかる。Aは早、頂上付近である。

「」はたんたんと調子で走るが、苦レモうである。行き交うドライバーは思て、まどうう。(あの阿呆達若レもうな顔、あれは馬鹿だあとや)と「」も頂上付近にさしかかり、後ろを振り向く。「」は懸命に坂を上っている。その調子と「」が手を振る。

後は下り、下り、もうすでにAの姿が見えない。「」ダッシュをかけ、ゴールする。

スカカ音ナ音を見ると見えない。目鏡を外している。手許、時計を見る。三十分となる。一瞬がクとなる一時間

を切る事は出来ない。だが、一言「」だなあ

と、もうためらわない。明日に目がけて又走ろう。その時「」は上級嫌に

ゴールする。感心感心完走である。途中で歩く事もなく皆驚く。一禹ばかり

走る。これは当の本人であろう。やれば出来るという事を身をもって証明したのである。「遂にやった、完走である」と

「」の声、眠い眠いAえなもなし。Tそれぞれ感想をつべ。家路へ急ぐ。帰りの車の中には樂しき一杯である。か

くて祕密練習が終る。

(会長記す)

初めての挑戦

平次滿子

私が十三キロも走ることにならなくて、全く予想も出来なかた駄馬異的な出来事が三月七日に起つります。完走ができるという自信は全くありませんが、精一杯頑張ってみようと思ひます。でも、どうしてこうなったのか、どう原因を考えみると、常々運動不足で身体を鍛えなければと思っていたことも一つですが、なんとしても、年末年始の食事過多の為に十五キロも肥り、身体が急に重くなり、年も明けたことだから、何かスリムをと思っていた矢先に、

岸和田の友人が、泉南走ろう会に入って、マラソンをして、いろいろ一緒に走りましたが、どうも誘いを受け、丁度その機会なので、トライしてみようという意に至ったのです。

ところが聞くところによると、初めて行く目に

次回定例ランニング会は二月三日(日)新家公民館にて午前九時集合で行ないます。

（二月七日定期会にて）
年間行事予定はあおよどです
ので、その都度事情により変更
がありますので御了解下さい。

お知らせ

年間行事おおよそ予定

もう少しあつともは走っていいので、走り
ながら、教えていたたか、さう走り方に慣
れるまでは、走ることが何がとても難しい
ことのように思えました。

途中、腹痛がしたり、吐き気がしたりして

もう一人で帰れますので、どうぞお先に
行って下さい」と、う言葉が、のどもとから
でかかってしました。しかし、なんとかかんとか、
休みながらではありましたが最後まで
走る事ができて、心の底がら良かつた！
思いました。途中で放棄していたり、と、
あの爽快な足分け味わうことになりました
にでしょう。本当に有難うございました。
三月七日にもあの日と同じ気持ちが味わえ
るよう、頑張りたいと思っています。

11月 12日
ハーフマラソンに参加
——フルマラソンに参加
今年中にフルマラソンに参加した。
旨の希望。